

## 高校Ⅰ年生

大学学部学科研究が行われます。中学3年で行われた職業研究を一步進めて、自分のなりたい職業につくためには、どのような知識や技術を身につけなければならないかを調べ、そのためには大学のどのような学部学科に学ぶ必要があるのか、ということ調べていきます。

そして、**職業適性検査**も実施して、その学部学科が自分に果たして適ったものであるかどうかを自分に問い続け、自己理解を更に深めていくことが求められます。このプロセスを経てはじめて、高校Ⅱ年生から文系に進むのか、理系に進むのかを決めることができます。

また、**大学学部学科研究**は、高校生としての学習に意欲的に取り組むモチベーションを与えています。

## 高校Ⅱ年生

**大学研究と自己実現**。多くの大学のオープンキャンパスに参加し、情報を集めていき、自分に最適と思われる大学を探します。そして、具体的に**志望校**を確定していきます。最後に『**志望理由書**』を仕上げることが、一つの具体的な目標となっています。「自分はこの大学で学びたいと熱心に願っています、それはこういう理由によるのです」、それが伝わるように立派に書き上げることを目指します。

そして、高校Ⅱ年の最後の3月に**修学旅行**で九州を訪れます。何故、海外旅行ではないのか？日本人として学んでおかなければならない過去の出来事があると考えているからです。長崎の原爆を通じて戦争の問題を、キリシタンの迫害を通じて思想・信条・信教の自由が侵された問題を、おもに学びます。これらの問題の根にあるのは、「正しい自分たちがそうではない他を叩き伏せるのは正義であり、正義だから何をしてもいいのだ」という不寛容の姿勢です。そのことを生徒に深く認識してほしいと願って、この修学旅行の学びの部分が構成されています。大きな争い事と身の周りの小さな争い事はつながっています。女子聖学院の卒業生には、行く先々で“**平和を創りだす人**”になって頂きたい。異なる意見の人に耳を傾け、「あなたと私は違って当然。でも違うものどうしがここにあります。共に生きるために、私は心と気持ちを一生懸命働かせます」と、自分にも、人にも、語り続ける人になってほしいと願っております。

もちろん、修学旅行ですから、旅の楽しい企画も様々に用意されています。

## 高校Ⅲ年生

大学受験という戦いにおいても、それまでに造られた学年の**生徒の強い絆**が、生徒一人一人の孤独な戦いを支えます。たとえ志望校や進路は異なっても、「学年の皆は**共に闘う仲間**だ」として、生徒は互いに支え合い、励まし合い、時には諫め合って、苦しい1年間を戦い抜こうといたします。

「私らしく」という**自己理解**を、学年が上がる毎に一步一步深めてきた高校Ⅲ年生は**自分の賜物を活かす**べく、実に幅広く、様々な分野に分かれて学院を巣立っていきます。「**進路が多様である**」ことは、本校の人間教育の結果でもあります。そのことを、女子聖学院は大いなる喜びとしております。

女子聖学院では、生徒個人が**自己実現を遂げていく為の手助け・支援**と、より良い**集団を形成していく為の意図的な働きかけ**とを結びつけて実行し、6年間をかけて、じっくりと一人の女性を育てております。